JAPAN CENTER FOR INTERNATIONAL EXCHANGE
日本国際交流センター

JCIE 連続セミナー
だから“日中韓”―絆の再発見

セミナー概要（第１回～第８回）

１．第１回「舞台とビデオで未来を拓く」（2014 年 11 月 25 日）

第１回は、東日本大震災を題材に日中韓三国の演劇関係者が共同制作した演劇「祝／言」の脚本、演出を担当した長谷川浩二・青森県立美術館舞台芸術総監督と、日中韓三国協力事務局主催「Trilateral New Wave」と題した日中韓ビデオコンテストの参加学生に、日中韓の共同制作活動についての映像を紹介してもらいながら、お話を伺いました。日本、中国、韓国がひとつになってどのように現在を語り合い、共に作り上げた作品を通じてどんな未来を語ろうとしたのか、その未来の絆の形について考える機会となりました。

2.　第 2 回「競い、高め合うライバル」(2015 年 1 月 16 日)

第２回では、岡田武史・元日本代表監督、池田誠剛・元サッカー韓国代表フィジカルコーチ、柳想鐵（ユ･サンチョル）・元サッカー韓国代表選手/元Ｊリーガーをお招きし、サッカーを通じてみる日中韓の関係についてお話を伺いました。中国スパーリーク所属のチームで指揮を執った岡田さんと、韓国代表チームにフィジカルコーチとして招聘された池田さん、日韓両国リークで選手として活躍され、韓国代表として世界のピンチも経験された柳さん、3 人それぞれの立場でのご経験談から、ライバルとして、またときには仲間として競い、高め合う日中韓三国の姿を再発見する場となりました。

3. 第 3 回「行き交うカルチャー」（2015 年 3 月 16 日）

第３回では、マンガ、アニメ、ゲームを指す「動漫」のファンサークル「北京大学元火動漫社」に所属する北京大学の学生３人と、指導教官である北京大学外国語学院の古市雅子准教授、そして日韓のポップカルチャーに造詣の深い一橋大学国際公共政策研究部の権容奭（クォン･ヨンソク）准教授をお招きし、日中韓のポップカルチャーの交流についてお話いただきました。学生たちのパフォーマンスを交えた日中韓のポップカルチャーの交流と受容の実情についてのお話から、カルチャーが生み出す日中韓若者による新たな絆の形を垣間見る機会となりました。

4.　第 4 回「観る、語る！朝鮮通信使のロマン」（2015 年 6 月 5 日）

日韓国交正常化 50 周年を迎えた 2015 年 6 月に開催された第 4 回では、ユネスコの世界記録遺産登録へ日韓協同申請の動きが見られる「朝鮮通信使」を取り上げました。朝鮮通信使研究の先駆者のひとりであった故・辛基秀さんが制作したドキュメンタリー映画『江戸時代の朝鮮通信使』を上映し、姜在彦・元花園大学客員教授には朝鮮史を踏まえて、そして王敏・法政大学教授には中国の視点を交えて、朝鮮通信使と日本に与えた影響について語っていただきました。また、パネルディスカッションでは、韓国近代映画史にも詳しい崔洋一・映画監督と、使節団が寄港した牛窓町のある岡山県瀬戸内市の武久顕也市長にもご参加いただき、朝鮮通信使の今日的意義を多元的な視点から探りました。

5.　第 5 回「広がる『茶の世界』を味わう」（2015 年 9 月 16 日）

第 5 回は、中秋の名月を迎える季節に合わせて、共通の茶葉から製法や喫茶の方法によって多様に広がる日中韓の茶文化をテーマにしました。裏千家に学ばれた中国社会科学院の張建立教授には、日中の喫茶風習の比較や茶文化から見える日本の文化の特色を語っていただきました、韓国の文化放送（MBC）メディア事業本部のキム・ソクチャン副局長には、朝鮮半島では日常的な器として使用されていながら日本では高麗茶碗の最高峰とされた井戸茶碗について、ご自信が制作された番組「朝鮮のマクサバル（井戸茶碗）」の映像を交えながら歴史を紐解いていただきました。日本で中国茶のサロンを開いている今野純子・Tea Salon Xingfu 主宰には、中国茶の魅力を茶芸の実演とともにご紹介いただき、中国茶を通じた日中の交流体験を語っていただきました。

6.　第 6 回「時代を映すテレビドラマ」（2015 年 12 月 1 日）

第 6 回では、日韓両国で放送され、それぞれ人気を博したドラマ作品（日本：「派遣の品格」（2007 年）、韓国：「職場の神」（2013 年）」を取り上げました。労働市場の規制緩和による非正規職問題という時流を反映しながら、職場の人間関係や働き方・生き方をいきいきと描いた日韓両作品のプロデューサー（櫨山裕子・日本テレビ製作局専門局次長統括プロデューサー、ハム・ヨンフン・韓国放送公社（KBS）プロデューサー・ディレクター）が始めて顔を合わせ、社会とテレビドラマの関係や、日韓両国の共通性と相違性を語りました。また、キム・ヨンドク・韓国コンテンツ振興院海外調査チーム長には、ドラマに代表されるメディアコンテンツによる日中韓の交流の現状や、今後のコラボレーションの可能性などを解説していただきました。

７．第７回「聖徳太子の平和外交に学ぶ」（2016 年 3 月 10 日）

第 7 回では、万葉集研究をはじめとする碩学でいらっしゃる中西進・高志の国文学館館長と日中の思想史を専門とされる関西大学文学部の陶徳民教授をお迎えし、古代までさかのぼって日中韓の古くからの繋がりを再吟味する時間を持ちました。604 年聖徳大使が制定した日本で初めての成文法となる十七条の憲法には、第一条冒頭の「和を以って尊しと為す」の文言に象徴されるとおり、和を尊重した国づくりの指針を示す平和憲法でした。後の時代の日本の為政者たちに理想像として繰り返し参照されてきたこの聖徳太子の平和外交から、現代の日中韓関係を考えるうえでのヒントを探る時間となりました。

8.　第８回「アメリカと語る日中韓」（2016 年 5 月 12 日）

第８回では、これまでとは視点を変え「アメリカと日中韓とは？」をテーマに、日本政治外交、日米関係のエキスパートであるジェラルド・カーティスコロンビア大学名誉教授をはじめ、東洋学園大学人文学部の朱建栄教授、ソウル大学国際大学院の朴喆熙教授、当セミナーのアドバイザーである石川好氏をお招きしました。日中韓という枠組みはアメリカにとってどういう意味を持つのか、日中韓は各国の米国との関係と深く結びついている安全保障、経済、金融などでどんな道を歩むべきなのかなど、核をめぐる北朝鮮の動向や、米国の大統領選挙の行方も踏まえながら、日中韓の関係をグローバルな視点から多面的に捉えることを試みました。